

基礎研修 マニュアルのモト

時間	科目名(標準カリキュラム案) テーマ(項目)	ねらい	内容	進め方	使用ツール	
9:30~9:45	15分 オ	④サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント オリエンテーション	研修目的と構成を理解する			
9:45~10:00	15分 オ	④サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント なぜ個別支援計画をつくるのか?	なぜ個別支援計画をつくるのか?を考える	事前課題として「なぜ個別支援計画をつくるのか?」を、自らの経験と言葉で80~100字程度で提出	①受講決定通知書に課題用紙を同封し郵送 ②研修初日にコピーを受付に提出 (原本は本人保管)	
10:00~11:00	60分 講義1	①サービス提供の基本的な考え方 サービス提供の考え方の基本を学ぶ	サービス提供の基本となる事項について学ぶ	本人主体、自立支援、ICF、エンパワメント、合理的配慮、チームアプローチ、PDCA、ストレングス、熱心さや親切心からくるパターナリズムの危険性等 ※なるべく事例を用いて説明	講義	パワーポイント
11:00~11:15	15分	休憩				
11:15~12:15	60分 講義2	②サービス提供のプロセス 権利擁護、意思決定支援、差別解消	なぜ自己決定や意思決定支援が大切なのかを学ぶ 虐待の実態を知る 虐待発見時の対処方法を知る 差別解消法を知る	意思決定支援の考え方 ※なるべく事例を用いて説明 虐待数の推移 通報方法・防止対策 虐待発見時の合理的配慮 ※なるべく事例を用いて説明	講義	パワーポイント
12:15~13:15	60分	昼休憩				
13:15~14:15	60分 講義2	②サービス提供のプロセス プロセス管理	支援のPDCAサイクルの重要性を学ぶ	サービス提供プロセスの全体像 PDCAと人材育成と虐待防止	講義	パワーポイント
14:15~14:25	10分	休憩				
14:25~15:55	90分 講義3	③サービス等利用計画等と個別支援計画の関係 障害者総合支援法・児童福祉法	制度の変遷と支援の考え方のパラダイム転換を理解する	障害福祉施策の変遷と動向 障害福祉サービスの概要 保護の対象から権利の主体 支援の考え方の変遷	講義	パワーポイント
15:55~16:05	10分	休憩				
16:05~16:50	45分 講義3	③サービス等利用計画等と個別支援計画の関係 役割と業務/サービス等利用計画との違い	サビ管等の役割と業務を学ぶ サービス等利用計画等との関係性を学ぶ 相談支援専門員との連携を学ぶ	サビ管等の役割と業務内容 サービス等利用計画等と個別支援計画の関係性 相談支援専門員との連携	講義	パワーポイント
16:50~17:00	10分	事務連絡				
9:30~11:30	120分 講義4	④サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント アセスメント(共通)	アセスメントはニーズを明らかにするプロセス(情報の収集と分析)であり、抽出方法を学ぶ 利用者主体とニーズを学ぶ 意思決定支援 個人・家族・環境→ICFの視点に立った利用者総体の理解 障害受容を考える 分野別・障害別テキストの説明	アセスメント(①初期状態の把握②基本的ニーズの把握③課題の整理)は、その人を理解する手段(インテークの信頼関係は重要) 利用者中心の考え方(自分らしく生きるを応援する) ニーズとは(誰のニーズなのか?) 「デマンド/ニーズ」「フェルトニーズ/ノーマティブニーズ/リアルニーズ」 意思決定支援 個人・家族・環境→ICFの視点に立った利用者総体の理解(「活動」「参加」にできる(能力)・している(実行状況)も踏まえる。) 障害受容を考える(パワーレスな状態など、経過段階によってはフェルトニーズとノーマティブニーズの乖離が大きい。) 共通ポイントを重点的に説明	《講義》⇒共通講義の内容 親・家族のニーズは自身(児童も)のニーズと相反することもある、など利用者中心ではあるが、取り巻く人・環境によって変化もする構造であることを知る。 障害受容は他者がさせるものでなく、自身が気付くもの。「障害受容」のプロセス(ショック→否認→混乱→適応への努力→適応)をステレオタイプとして捉えることへの注意喚起をする。 《ミーティング形式》 ①初期面接の時に信頼関係を築くうえで、工夫していることなど、2~3人で5分程度ミーティングの時間を持つ。	【知的・精神】フアンリテキストP17のニーズの氷山の図やP93「生活ニーズ」の内容参照 ICF表 知的・精神の十字分布図(やりたい度・やれそう度)
11:30~12:30	60分	昼休憩・教室移動				
12:30~12:50	20分	演習オリエンテーション	演習での獲得目標の確認 演習のチーム作りは、模擬支援チーム作り。意見が出しやすい環境や姿勢を学ぶ。	自己紹介 アイズプレイク 演習の進め方の説明	①自己紹介 ②アイズプレイク ③演習の進め方の説明	
12:50~13:05	15分	⑤個別支援計画のポイントと作成手順 個別支援計画作成 I 個別支援計画作成のポイント(復習)	個別支援計画をつくることのできる 本人主体、エンパワメントの視点を持って支援できる 各テーマで学んだ考え方や技術を活用することで理解する	作成上のポイント説明	①本人主体、エンパワメントの視点で作成することを説明する ②各テーマでの考え方や技術の具体的な活かし方を伝授	
13:05~13:20	15分	⑤個別支援計画のポイントと作成手順 個別支援計画作成 II - 1 ※ニーズの聞き取り(利用者主体)	計画を作成するには、利用者の意見を聞くことを学ぶ 聞き方を学ぶ	本人への聞き取り	①ファシリテーターによる実演	聞き取りの台本
13:20~14:40	80分	⑤個別支援計画のポイントと作成手順 ⑥個別支援計画の作成 個別支援計画作成 II - 2 ※ニーズの整理(利用者主体)	自分と他者との価値観の違いを学ぶ。一人の気持ちを考える、ノーマライゼーション、まず自分だったらどう思うのか 支援者目線になりやすい気持ちを、自覚をする グループ内の価値観の違いに気付く(より良いチーム作りの体験をする。→グループダイナミクス(方針が揃った時の強さを体験))	ニーズアセスメント ①ニーズの明確化 ②ニーズの優先順位 取り組むニーズの大事な視点を学ぶ。 なぜ、ニーズをしっかりと捉えることが大事なのか 「デマンド/ニーズ」「フェルトニーズ/ノーマティブニーズ/リアルニーズ」の関係性を知る ニーズの関係性(時期、相反関係) ニーズの優先順位表をつくる アセスメントの要約は、支援の方向性を指し示す羅針盤の役割を心得る	講義: ニーズの説明(復習) 演習(私の希望体で書き出す) ①個人ワークでニーズの洗い出し ②グループワークでニーズの共有と十字分布図に落とし込み優先順位を決める	付箋 ニーズ優先順位整理表
14:40~14:55	15分	休憩				
14:55~15:55	60分	⑥個別支援計画の作成 個別支援計画作成 III - 1 ※ストレングスとリフレーミングとその活かし方	《ストレングス》 支援計画作成前にストレングスを整理することを体験する 《リフレーミング》 利用者の行動、考え方、状態、状況、環境等の事実を、支援者の捉え方次第で、実態・状況は変わらずとも意味・価値は変わること理解する 《リフレーミングの活かし方》 リフレーミングしたものを支援に活かすことができるようになる	ストレングス ストレングスを個人・環境で整理する リフレーミング リフレーミングの考え方を知る リフレーミングした事項に基づいた支援の方路について考える ストレングスの可能性とウィークネスのリフレーミングでのヒントの発見をする 抽出したストレングスがニーズを充足する資源となることを知る	①事例のストレングスとウィークネスを付箋に書き込み、表に貼りグループで共有(個人・環境) ②ファシリテーターがリフレーミング例を用いながら考え方を説明する ③事例のウィークネスをリフレーミングする(個人作業→グループワーク) ④グループ内でペアになりリフレーミングの言葉かけの練習 ⑤事例とは別に例題を用いてリフレーミングした内容を支援に活かす方路を考える(個人作業→グループワーク)	付箋 ストレングス・ウィークネス対比表 ストレングス(個人・環境)表
15:55~16:55	60分	⑥個別支援計画の作成 個別支援計画作成 IV ※ニーズの要約	リアルニーズの要約を行うことで、個別支援計画のキモを明確にすることができる	個別支援計画作成 II ~ III で得られたリアルニーズを100文字で要約する	①ニーズの100文字要約を行う(個人→グループ) ②リアルニーズを満たすための支援が「個別支援計画」となることを説明	アセスメント100字要約用紙
16:55~17:00	5分	事務連絡				
9:30~10:50	80分	⑤個別支援計画のポイントと作成手順 ⑥個別支援計画の作成 個別支援計画作成 V	個別支援計画をつくることのできる 本人主体、エンパワメントの視点を持って支援できる 各テーマで学んだ考え方や技術を活用することで理解する	個人作成(A4) チーム作成(模造紙)	①個別支援計画書式の説明 ②よくあるNGを紹介 ③個人ワークでまず作成(20分) ⇒視点や工夫、知識技術の活用 ④グループワークで作成(60分) ⇒複数人で作っていくことにポイント	個別支援計画書
10:50~11:30	40分	⑥個別支援計画の作成 計画発表	計画作成において必要な伝え方、理解の求め方を学ぶ 他グループの計画から新たな視点を学ぶ	グループごとに自分たちで作った個別支援計画を発表し、ポイントを説明	①黒板に計画(模造紙)を貼って説明。特に学んだことを活かした部分を主張 ②ファンリによるアドバイス	
11:30~12:30	60分	昼休憩				
12:30~13:50	80分	⑦個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング) および記録方法 個別支援計画作成 VI モニタリング(6か月後)	一定期間毎にサービス提供の内容、頻度等が適切に行われているかチェックし、支援目標、結果を評価する大切さを学ぶ	6か月後の状況から、前回作成した個別支援計画の内容、頻度等が適切であったか評価する ニーズ、家族の意向等を踏まえ新たな個別支援計画を作成する 他グループの計画を確認し、新たな気付きを得る	①6か月後の状況を確認する ②個別支援計画の達成状況を確認(グループ) ③評価結果に基づき、新たな個別支援計画を作成する(個人→グループ) ④他グループの個別支援計画の良いところを付箋で貼る(ラウンド方式)	
13:50~14:00	10分	休憩				
14:00~15:10	70分	⑦個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング) および記録方法 支援会議	事例に即した模擬支援会議を体験することで参加者の思いや役割に気付く 会議の実施には準備が必要であることを学ぶ 支援会議におけるサビ管等の役割を学ぶ(雰囲気作り、時間管理、進行等) 演技であっても内面の動き、ざわつき、揺れ、感情的な反応を表現し共有することで気付きを得る	《設定》 個別支援計画の修正後に位置付けた支援会議 《配役》 本人・家族・相談支援専門員・関係事業所(+観察者) 《時間》 70分 (説明・準備15分、実施20分、振り返り15分、発表とまとめ20分)	①ロールプレイの概要説明(ロールプレイとは・ロールプレイの方法・目的・注意事項等) ②設定・手順の説明 ③配役・配置・席順の決定 ④ロールプレイの実施 ⑤グループごとに振り返り ⑥発表(ロールプレイの様子、席順の理由、観察者の感想等) ⑦支援会議のまとめ(ファシリテーター:支援会議におけるサビ管等の役割について、雰囲気作り、会議目的の共有、時間・発言のマネジメント等のまとめを話す。)	個別支援計画書
15:10~16:10	60分	⑦個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング) および記録方法 なぜ個別支援計画をつくるのか? どんなサビ管になりたいか?	3日間の研修で学んだことを振り返り、「なぜ個別支援計画をつくるのか?」「どんなサビ管になりたいか?」を考え、研修内容を深める	本人=監督/サビ管(支援者)=演出家 以下の2問を自らの言葉で100字要約 「なぜ個別支援計画をつくるのか?」 「どんなサビ管になりたいか?」 グループ内で共有	①ミニ講義(サビ管等→人生の演出家) ②個人ワーク なぜ個別支援計画をつくるのか? どんなサビ管になりたいか? ③グループワーク グループ内で100字要約を発表し、隣の人から応援メッセージをもらう	
16:10~16:25	15分	休憩				
16:25~16:50	25分	各教室でのまとめ		参加者からの感想 各ファンリからエール		
16:50~17:00	10分	事務連絡				

テーマ(項目)	ねらい	内容
アセスメント(分野別・障害別) ※テキストに盛り込み講義なし	分野別や障害別の固有のアセスメントの視点を学び、統合した見立てのポイントを掴む。 時間軸を意識できるかも確認する。(有期限やモニタリングのタイミング、生涯発達などからも)	障害特性とライフステージ 「成人期・児童期」「知的」「精神」「身体」「教育」「生活」「就労」「地域」「施設」 「訓練」「療育」「リハビリテーション」 分野固有のポイント